

別紙様式 1

令和 7 年度宮原中学校区研究推進計画

校番 (1 2) 呉市立宮原小学校

校長名 木谷 順子

1 学校教育目標

- 宮原中学校 「**自他尊重～未来を拓く力の育成～**」
- 坪内小学校 「**みずから ひらく**」
- 宮原小学校 「**自ら学び 共にのびる**」

共にのびる」

2 目指す児童生徒像

自分を磨き、社会の一員としてよりよく生きようとする児童生徒

3 育成を目指す資質・能力 (具体の姿)

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等	
	①知識・技能	②問題の解決	③主体性・協働性	④郷土愛・貢献
後期	新しい知識技能を身に付けたり, 既習のものとの関連付けや組み合わせをしたりすることで, 様々な場面で活用できる知識・技能として体系化することができる。 (中 2～中 3)	問題を見出し解決していくために, 必要な判断をしたり, 伝える相手や状況に応じた表現をしたりすることができる。	自分事として対象に関わり, 他者を尊重して学習や生活の課題を解決したり新たな価値を創造したりすることができる。	地域社会の一員として 自分事として関わり, 地域に愛着と誇りをもつことができる。中学校区の学校や社会のためにできること考え行動することができる。
中期	新しい知識技能を身に付けたり, 既習のものとの関連付けや 組み合わせ をしたりすることができる。 (小 5～中 1)	【必要な判断のために】 ・情報を選んで ・比較して ・分類して ・関連付けて ・批判的に見て ・多角的に見て	対象に積極的に関わり, 他者の考えを受け入れて学習や生活の課題を解決することができる。	地域の歴史や伝統・文化を知って つながりを大切にし, 地域に愛着をもつことができる。学校や地域のためにできることを考え行動することができる。
前期	新しい知識や技能を身に付けるとともに, 既習のものとの関連付ける ことができる。 (小 3～小 4)	※発達段階で分けるのではなく, 各教科等の単元や学習内容に応じて必要な判断の方法を決めていく。	身の回りの人・もの・ことに積極的に関わり, 協力して学習や生活の課題を解決することができる。	地域の良さや特色を知って 積極的に関わり, 地域を好きになることができる。学級のためにできることを考え行動することができる。
	新しい知識や技能を身に付けることができる。 (小 1～小 2)		身近な人・もの・ことに関わり, 意欲をもって学習したり生活したりすることができる。	地域の良さを知り, 地域を好きになることができる。 友達のためにできることを考え行動することができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学ぶ・ねばり強く生きる児童生徒の育成

～「分かる!」「できる!」仕掛けづくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和6年度、本中学校区では、授業づくり及び、学びの基盤づくりの視点として「『分かる!』『できる!』仕掛けづくり」に取り組み、「主体的に学ぶ・ねばり強く生きる児童生徒の育成」を目指してきた。その中で、3校共通して行った主な取組を2点挙げる。

1点目は、児童生徒が、「分かった」「できた」と実感を得られる授業にするために、授業改善のサイクルを整え実践、継続したことである。具体的には、合同授業研究の実施→授業参観シートの記入→合同授業研究からの学びを取り入れた教材研究と実践（全教員）→実践の報告（各校内）→実践の報告（合同研修）というサイクルである。このサイクルにより、教員は、「分かる」「できる」仕掛けづくりの方法を幅広く学び、実践し、児童生徒に様々な学習方法を示すことができたと言える。

2点目は、学びの基盤となる規律を整えるため「生活5項目」、主体的な学びを促すため「学習5項目」を設定したことである。「生活5項目」については、各校、校内に掲示した。また、それぞれの5項目を意識調査（アンケート）の項目とすることで、児童生徒が自分自身の姿を振り返る機会を設けた。さらに、意識調査後の結果を受けて、課題が明らかになった項目については、なぜその項目があり、どのような姿を目指そうとしているのかについて、児童生徒と教員の間で共通理解を図るようにした。

これらの取組の結果、「授業づくり」に関わって、授業が「分かる」かについて問うアンケート項目では、肯定的に自己評価した児童生徒が3校とも80%を超えた。同様に、自分で課題解決が「できる」かについて問うアンケート項目でも80%を超えた。また、「生活5項目」「学習5項目」ともに、肯定的評価3校平均88%という結果となった。

これらのことから、児童生徒の意識の面では一定の成果が表れたと言える。しかし一方で、検証の指標である「学期末テストの結果」は、目標値に達していない。併せて、生活面・学習面での実態を鑑みたとき、児童生徒の意識調査の結果に相当する力が付いているとは言い難い実態もある。

そこで、令和7年度、「授業づくり」においては、基礎学力の確実な定着を図ることを継続する中で、児童生徒が「分かる」「できる」実感を得るだけでなく、実態としても「できる」ようになることを目指し、そのためにどのような仕掛けづくりが必要なのか、実態分析に基づいた授業づくり、授業改善に取り組んでいくこととする。そのための新たな研究内容の視点として、「目指す姿につながる振り返り」「つまずきの抽出」「解き直しの時間の設定」を取り入れる。また、ICT機器の効果的な活用については模索することを継続する。「学びの基盤づくり」においては、「児童生徒が『ねばり強く生きる』ことにつながる」力を、実態として付けていくことを目指し、「『生活5項目』を高める取組」「郷土愛と貢献の良さが『分かり』実現『できる』活動」を継続する。これらに加え、「児童生徒代表者会『宮原子どもサミット』」を軸とした取組の内容を精査する。宮原子どもサミットでの活動の計画→各校での取組→サミットでの報告・振り返り→各校での報告といった流れの中で、児童生徒が主体となり、自分たちの生活をよりよくするための活動を企画・運営・実行すること、代表者だけでなく全児童生徒が実行することを目指す。そうすることで、児童生徒の自己肯定感及び行動力の向上を図ることができ、「生活5項目」「学習5項目」の実態を伴った定着にもつながると考える。

(3) 研究仮説

学習や他者への理解について児童生徒が「分かる」「できる」実感を得られれば、主体的に学ぶことやねばり強く生きていく力を育むことができるであろう。

5 研究内容

(1) 「主体的に学ぶ」児童生徒の実現に向けた取組

①児童生徒が「分かる」「できる」実感を得られる授業づくりに向けた取組

- ・「分かる」：課題提示の工夫，発問の工夫，目指す姿につながる振り返り，つまずきの抽出
- ・「できる」：単元の中で，児童生徒がやりきれぬ適応題やパフォーマンス課題の設定（時間や内容の工夫），解き直しの時間の設定

②タブレット等のICT機器の効果的な活用

- ・基礎学力の定着をはかるためのキュービナや帯タイムの設定（反復練習・個に応じた学習・解き直し）
- ・思考ツールの活用

(2) 児童生徒が「ねばり強く生きる」ことにつながる取組

○児童生徒が「生活5項目」を高める意味が「分かり」実現「できる」取組

○児童生徒の郷土愛と貢献の良さが「分かり」実現「できる」活動の設定

（異学年グループによる体験活動・地域貢献活動の充実）

○児童生徒が自分や他者の良さを「分かり」他者を尊重しながら自信をもって行動「できる」取組

（児童生徒代表者会「宮原子どもサミット」を軸とした委員会活動の充実，学校行事の充実）

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒が「主体的に学ぶ」ことにつながる授業改善ができたか。	教職員アンケート ※R6のアンケートに基づいて，より実態が量りやすい表現に改善したもの	○「学習5項目」に関する自己評価（4段階評価） ○授業改善に関する自己評価	R6の結果…92%	○肯定的評価80%以上
	児童生徒アンケート	「学習5項目」に関する自己評価（4段階評価）	R6の結果…88%	○肯定的評価80%以上
	学期末テストの結果	小学校：国語・算数の単元末テスト 中学校：国語・数学の定期テスト	R6の結果 ○単元末テスト・定期テスト→正答率 <宮原小学校> 国語…79%（80点以上80%） 算数…76%（75点以上80%） <坪内小学校> 国語…79%（80点以上80%） 算数…89%（70点以上70%） <宮原中学校> 国語…55%（60点以上60%）	○単元末テスト・定期テストの正答率（国・算（数））の達成率100% ※各校，学校評価計画の目標値に準ずる ○単元末テスト・定期テストの正答率（国・算（数））30%未満の児童・生徒の割合 ・小学校…0% ・中学校…10%以下

			数学… 45% (60点以上60%) ○単元末テスト・定期テスト→正答率 30%未満の児童生徒の割合 <小学校> 国算合算…1.8% <中学校> 国語… 9% 数学…21%	
② 児童生徒が「ねばり強く生きる」ことにつながる取組はできたか。	児童生徒アンケート	「生活5項目」に関する自己評価(4段階評価)	R6の結果… 88%	肯定的評価 85%以上
	児童生徒アンケート	「自己肯定感」に関する自己評価(4段階評価)	R6の結果… 70%	肯定的評価 75%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



※R7…事務局（宮原中学校）

授業づくり部会担当（宮原小学校）

学びの基盤づくり部会担当（坪内小学校）

(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小，小→中）

（中→小）第6学年 英語（1），数学（1）

（小→中）第7学年 国語補充（2），数学補充（2），総合的な学習の時間（2）

イ 小学校教科担任制等

宮原小 第6学年・第5学年（音楽）（図画工作）（家庭科）

第4学年（音楽）（図画工作）

第2学年・第3学年（音楽）（書写）

第1学年（音楽）

坪内小 第3学年～第6学年（理科）（書写）

第5・6年（家庭科）

第3・5年（図画工作）

8 推進計画

月 日	内容		
	宮原中	坪内小	宮原小
4月(宮中) (坪小) (宮小)	各校での校内研修(今年度の方向性の確認)		
4月14日(月)	第1回 小中一貫教育 運営委員会		
5月2日(金)	小中コーディネーター会		
5月13日(火)		校内授業研究 専科	
5月16日(金)			校内授業研究 6年
5月21日(水)	第1回 小中合同修会(宮原中)		
6月4日(水)?	小中クリーン活動(担当:事務局)		
6月11日(水)	第1回 小中合同授業研究(坪内小4年) 指導講話 広島大学 朝倉 淳 名誉教授		
6月18日(水)	第1回 宮原子どもサミット(担当:坪内小) 内容:○いじめ撲滅標語について ○第2回宮原子どもサミットの内容確認		
6月30日(月)			校内授業研究 特別支援学級
7月1日(火)		校内授業研究 たんぼぼ	
	意識調査①(児童生徒・教職員)		
7月9日(水)	校内授業研究		
7月11日(金)	小中コーディネーター会		
7月下旬	中学生学習会 ※小学校教員による学習サポート		
7月31日(木)	第2回 小中合同修会(宮原中)		
8月上旬	小学生学習会 ※中学生による学習サポート		
9月9日(火)		校内授業研究 ひまわり	
9月12日(金)			校内授業研究 4年
10月1日(水)		校内授業研究 1年	校内授業研究 1年
10月24日(金)	地域公開参観日		
10月28日(火)	第2回 小中合同授業研究(宮原中〇年) 指導講話 呉市教育委員会		
10月29日(水)	第2回 宮原子どもサミット(担当:宮原小) 内容:○いじめ撲滅キャンペーン中に各校で取り組んだ活動について ○第3回宮原子どもサミットの内容確認		
10月31日(金)		校内授業研究 2年☆	
11月5日(水)	校内授業研究		

11月26日(水)		校内授業研究 コスモス	
11月27日(木)		校内授業研究 6年	
11月28日(金)			校内授業研究 5年
12月1日(月)	意識調査②(児童生徒・教職員)		
1月15日(木)	小中コーディネーター会		
1月29日(木)		校内授業研究 5年☆	
2月2日(月)	第3回 小中合同研修会		
2月5日(木)		校内授業研究 3年	
2月27日(金)	第2回 小中一貫教育 運営委員会		
3月11日(水)	第3回 宮原子どもサミット(担当:宮原中)		

※小中コーディネーター会は、計画に依らず必要に応じて開催する場合もある。

※小中クリーン活動について…案内、グループ分け等、必要な文書作成・連絡調整は事務局が主となって行う。当日は、中学生が進行や指示を行う。そのため事務局は、事前に、宮原中のコーディネーター(クリーン活動担当者)と連携する。

※宮原子どもサミットについて…案内、レジュメ等、必要な文書作成・連絡調整は担当校が主となって行う。会場は、宮原中学校とする。そのため担当校は、事前に、宮原中のコーディネーター(サミット担当者)と連携し、場所、時間、会場設定等の調整を図る。

9 その他

- ・小中一貫だより(年3回発行予定。「小中一貫コーナー」として、各学校だよりに小中一貫教育の内容を加える。)
- ・児童生徒アンケートの項目に加えるもの

『生活5項目』

- 1 自分から、挨拶をしよう
- 2 『はい』と大きな声で返事をしよう
- 3 時間いっぱい黙って掃除をしよう
- 4 脱いだくつやスリッパをそろえよう
- 5 時間を守ろう

『学習5項目』

「分かる」

- 1 毎時間の学習内容を理解している。
- 2 毎時間の学習内容を友達と確認している。

「できる」

- 3 毎時間の練習問題ができる。

「主体的」

- 4 自分で問題を選んだり解き進めたりしている。
- 5 学んだことを生活に活かしている。

『自己肯定感』に関するもの

- 1 自分にはよいところがある。